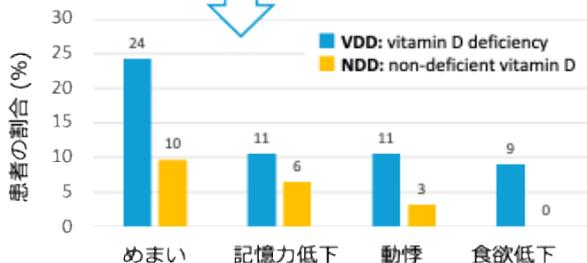
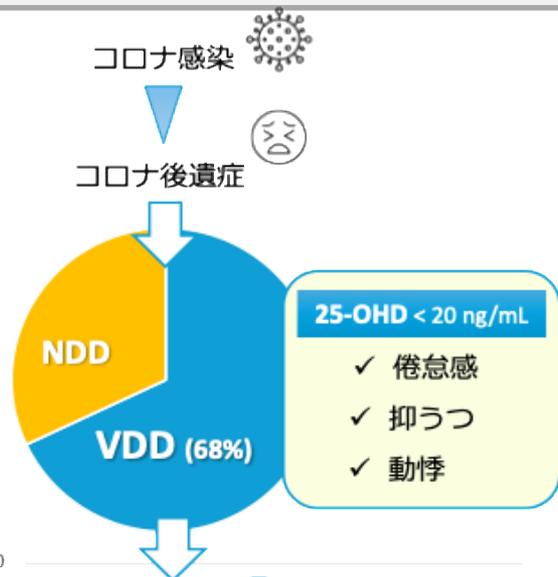


コロナ後遺症診療におけるビタミンD測定の意味

研究の背景：欧米では、コロナ後遺症患者におけるビタミンD低値が報告されていますが、本邦ではまだ十分な検討がされていません。本邦におけるコロナ後遺症でのビタミンDレベルについて評価しました。

対象・方法：当院コロナ・アフターケア外来を受診した**新型コロナウイルス罹患後症状患者 126人**（2024年5月27日～2024年11月30日：オミクロン期）のうち、ビタミンD服用者を除外し、血中ビタミンD値を測定した**97人（男性47人・女性50人）**について解析し、後遺症とビタミンDの関連性について検討しました。



主な結果と考察：

- ① **ビタミンD欠乏 (25-OHD < 20 ng/mL) のあるコロナ後遺症は66人 (68%)**で、年齢中央値は38.5歳、男女差 (50%) を認めませんでした。
- ② ビタミンD欠乏 (VDD) 群では、非欠乏 (NDD) 群と比べて、**めまい・記憶力低下・動悸・食欲低下**を訴える患者の割合が多く認められました。
- ③ ビタミンD欠乏 (VDD) 群では、非欠乏 (NDD) 群と比べて、**抑うつ・疲労を示すスコアが上昇**していました。
- ④ コロナ後遺症に見られる**神経症状や循環器症状とビタミンD低下との関連**が示唆されました。

Yui Matsuda, Yasue Sakurada, Yasuhiro Nakano, Yuki Otsuka, Kazuki Tokumasu, Hiroyuki Honda, Yoshiaki Soejima, Yuya Yokota, Ryosuke Takase, Daisuke Omura and Fumio Otsuka: Clinical Characteristics of Vitamin D Deficiency Detected in Long COVID Patients during the Omicron Phase. *Nutrients* 2025, 17(10), 1692.